

◆中東とアジアをつなぐ新たな地域概念・共生関係の模索（15：00-15：50）

1. 基本情報

| | |
|-------------------|---------------------------|
| 研究課題名 | 中東とアジアをつなぐ新たな地域概念・共生関係の模索 |
| 責任機関名 | 東京外国語大学 |
| 研究代表者（所属部署・役職・氏名） | 大学院総合国際学研究院・教授・酒井啓子 |
| 研究期間 | 平成18年度～平成22年度 |
| 主に研究対象とする国名 | （パレスチナ／イスラエル）（イラク） |

2. 研究の概要

中東地域におけるさまざまな問題は、同地域やその周辺に留まらず、日本およびアジアを含めたグローバルな世界に大きな影響を与えている。しかし日本の中東研究は欧米に比較しても長い歴史と蓄積を持つにも関わらず現代の中東に関する日本における一般的認識は、十分に深まっているとはいえない。さまざまな社会的ニーズにこたえるために、既存の情報・知識をどのような形で社会に公開していくのが効果的か、また日本において中東に対する社会的な関心がいかなる点にあるのか、情報発信方法について調査を行い、新たな知的発信方法を開拓することが本研究の目的である。そのためインターネット、対面的交流、活字メディアなどさまざまな発信方法について、従来の方に対するアセスメントを行い、新たな方法を検討する実験方式のニーズ発掘事業を展開した。特に対面的双方向型交流の試みの場である「中東カフェ」をほぼ月一回実施し、そこで聴取した参加者の意見から、参加者の間では文化面や生活実態への知識欲が（特に地方で）大きいこと、宗教や文化を過度に政治情勢と同一視しないこと、日本の果たす役割に対する関心の高さ、ジャーナリズム、NGO、官界など各分野での情報・認識の齟齬や地域研究に対する理解のなさなどを見て取ることができた。また日本の中東認識の深化と平行して、中東における対日認識に関する調査を、現地紙の報道や現地知識人との意見交流のなかで行ったが、近年中東の対日関心はさほど高まっているとはいえず、対欧米関係の鏡像あるいは複写以上の学術上の関係を構築する必要がある。

3. 研究成果及び社会にもたらす波及効果

日本の中東研究は欧米に比較しても長い歴史と蓄積を持ち、中東情勢の変動を綿密に分析し、現代的な問題意識に十分呼応した研究成果を提供しうる水準にある。また民間企業やNGO、メディアなど、中東の現場で活躍する諸機関も、長く中東との直接の交流の歴史と情報の蓄積を持っている。それにも関わらず相互意思疎通が十分でなかったことで、それぞれが有する重要な知見が活かされず、日本・中東関係の構築・改善に寄与できなかったことが問題である。その問題に対し、本事業では各種の専門家を交流させ複数のテーマを結び付けたインターディシプリナリーな自由な意見交換の場としての「中東カフェ」を実施することで、解消しようとした。時限付きの事業であるため、恒常的に「カフェ」方式を継続することができないが、この方式の有効性が証明されたため、市民団体や大学など、いくつかの講演会などでは類似の「カフェ」方式を取り入れるようになっている。今後大学での講義、各種講演会などに組織的に取り入れ、恒常的に実施できる制度化の可能性を模索することが望ましい。

またバイルートで実施した二度の国際ワークショップでは、現地社会のみならず中東全域から広く研究者、メディア、一般市民などの参加が得られ、そのことから日本・中東の学術的交流の深化、発展のためには、積極的に現地で開催する学術交流活動を進めることが（対日招聘などよりも）有効であることがわかった。この点は、今後外交政策を含め日本・中東関係の緊密化を進めるうえで参考にしてほしい。

「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」

中東とアジアをつなぐ 新たな地域概念・共生関係の模索

実施機関：東京外国語大学

研究代表者：酒井 啓子

実施期間：H18年度～H22年度

地域研究の重要性

- 1992年ODA大綱 「相手国からの要請・考え方を十分勘案しつつ、開発途上国に関する情報の収集・分析を進め、開発政策等の基本認識を相手国との間で共有」
- 紛争など生活空間を根幹から破壊し、変質させる事態が発生した場合には、その社会が抱えるあらゆる潜在的な問題点が一挙に噴出する
→ 必要な支援、協力を有効に現地社会に提供するための基礎的、総合的かつ分野横断的、学際的な認識枠組みが必要＝地域研究

中東地域研究の重要性と問題

- ◎ 中東地域における政治的軍事的対立、内戦、戦争などによる社会の疲弊、経済的停滞、政治的社会的な不公正に対する鬱屈感→国際的な不安定と緊張
- ◎ グローバル社会において日本があらゆる分野で国際貢献を進める上で、中東に対する理解と相互交流の推進は不可欠
- ◎ 日本における中東に関する一般的認識が十分に深まっていない＝情報不足と発信力の弱さ
→中東、イスラーム社会に対する偏見、画一視などにあらわれている

主たる事業目的

- ◎ 日本の各界が有する対中東研究・社会的経済的交流の蓄積を総合し、現在の中東情勢に呼応した新たな知的枠組を確立すること＝NGO、メディアなどと研究者の交流推進
- ◎ 日本において中東に対する社会的な関心がいかなる点にあるのか、既存の情報・知識をどのような形で社会に発信していくのが効果的か＝新たな情報発信方法の模索
- ◎ 中東・イスラーム世界とアジアをつなぐ新たなアイデンティティの発掘、将来的な中東・アジア交流の基礎となる相互理解の枠組を構築

日本において中東に対する社会的関心がいかなる点にあるのか

→各種イベントの実施を通じたニーズの把握・開拓

- ◎ 「中東カフェ」の実施：一般市民を対象とした参加者との双方向的な、ざっくばらんなトークの場を、喫茶店、劇場、映画館、イベントスペースなどで開催
- ◎ 国際シンポ、ワークショップの実施：その分野の専門家を国内外から招いて、集中的に特定テーマを掘り下げた議論を行う

中東カフェの実施を通じた参加者の対中東認識の把握

アンケート結果分析から・・・

- (A) 中東の人々の生の声を聞きたい：リアルな中東とは
- (B) 日本人になにができるか考えたい
- (C) (経済問題について)仕事上の関心
- (D) 研究者・専門家の生の情報をきいてみたい
- (E) 中東文化を体験したい

(A)中東の人々の生の声を聞きたい ：リアルな中東とは

- 第1回「中東研究と社会の接点を探る」2006年12月10日（新宿）
- 第4回「在日イスラム教徒に聞く1 ムスリムの働きマンinニッポンvs大野元裕」2007年2月17日（銀座、蕃銀座珈琲店）
- 第5回「中東カフェ@しぶや（精神分析の視点から）」2007年5月26日（渋谷、アップリンク）
- 第10回「私の中のユダヤ人。アイデンティティーを見つめ直す」2007年11月16日（下北沢、エスカフェ・ダイニング）
- 第15回「世界のどこに住むの？ 在カナダのイラン人 vs 在日のコリアン」2008年5月9日（東京外国語大学）
- 第31回「民の声、抵抗の色」2009年9月18日（中目黒、ミヅマ・アート・ギャラリー）
- 第32回「連続トークセッション+上映会 映画『スリングショット・ヒップホップ』の監督に聞くーパレスチナ新世代の文化とアイデンティティー」2009年12月16日（東京外国語大学）、18日（アップリンク）、19日（国際交流基金）



左：映画『スリングショット・ヒップホップ』監督



右：在日ムスリムを囲むトーク

(B) 日本人に何ができるのか

- 第6回「国際支援とはなにか。現場の視点」2007年6月22日（島根県、松江工業高等専門学校食堂）
「国際支援とはなにか。現場の視点」2007年6月23日（松江市、カラコロ工房）
「中東カフェ@石見銀山」2007年6月24日（島根県大田市）
- 第7回「シリーズ 中東研究と社会の接点を探る」2007年7月26日（川口、彩葉庵）
- 国際ワークショップ「平和構築・紛争予防に向けて新たなアプローチを探る」2008年1月25-26日、(東京外国語大学 平和構築・紛争予防講座共催)
- 第17回「映像&トーク 攻撃から5年：イラクの人たちの生活:人道支援に何ができるか？」2008年7月5日（大阪・第七芸術劇場）
- 第20回「日本人女性たちが見てきた中東」2008年11月16日（函館・函館YWCA）
- 第21回「多文化共生・イスラーム・とやま」2008年12月3日（富山・CiCビル）
- 第22回「今イラクで日本のNGOは何をしているのか(1)～(3)」2008年12月10日、22日、1月14日（東京外国語大学）
- 第23回「ノルウェーと日本－中東政策の違いを検討する」2008年12月19日（東京大学駒場キャンパス）
- 公開シンポジウム「中東の今と日本 - 私たちに何ができるのか」2010年11月23日（JFICホールさくら）

右：公開シンポジウム「中東の今と日本 - 私たちに何ができるのか」



左：ノルウェーのNGOより招へいしたダグフィン氏の講演

(C)経済問題に対する仕事上の 関心

- ◎ 第2回「イラン・日本・アメリカ 中東外交：日本の選択」 2007年1月14日(渋谷・アップリンク)
- ◎ 第8回「イスラーム金融とはなにか」 2007年9月26日(日比谷、松本楼)
- ◎ 第16回「中東と地球温暖化」 2008年7月3日(青山・オステリアラマネッコ)

右：イスラーム金融を
テーマにしたカフェ



左：地球温暖化を
テーマにしたカフェ

(D)研究者・専門家の生の情報を聞く

- 第9回「エルサレム ～宗教と民族が織りなす聖地～」2007年10月13日（北海道国際交流センター）
- 第19回「リダクテッド上映会&トーク」2008年10月15日（東京外国語大学）
- 第28回「イランの事態を受けた専門家の見方」2010年6月23日（東京、浜松町サン・ミケール）
- 第29回「第2弾 イラン情勢ー革命30年目にみる宗教界の変化ー」2009年7月1日（四谷、サルサ・カバナ）
- 第30回「第3弾イラン情勢を中東地域はどうみているのか」2009年8月6日（四谷、サルサ・カバナ）
- 研究シンポジウム「30年の後」2009年6月6-7日（UDX秋葉原）
- 第32回「中東カフェ@広島2010 ライブ！fromパレスチナ： ヒップホップと朗読で聞く「中東紛争」の現実+朗読劇「ガザ・希望のメッセージ」」2010年3月21日（広島市、カフェ・パコ）
- 公開ワークショップ「「アラブ大変動」を読む：チュニジア、エジプトの民衆パワーはどこへ行くのか」2011年3月3日（東京外国語大学）



左：イラン情勢をうけて
開催した緊急カフェ

下：朗読劇「ガザ・希望
のメッセージ」



(E) 中東文化を体験したい

- 第3回「アラブ文化の調べ」2007年2月10日（広島・カトリック幟町教会）
- 第11回「服を選ぶ、アイデンティティを選ぶ」2007年12月16（アップリンク）
- 第12回「踊るアラブ人 Arabポップスの最前線」2008年2月1日（汐留、キューバンカフェ）
- 第14回「アラブのメディアと大衆文化は今」2008年3月22日（渋谷、アップリンク）
- 第18回「ラマダンの過ごし方」2008年9月21日（東京・緑ヶ丘文化会館）
- 第26回「風刺漫画で見る中東の政治や社会 —イスラム革命から30年のイランの場合—」2009年1月16日（渋谷・アップリンク）、第27回2009年1月18日（大阪・ブックカフェワイルドバンチ）
- 第13回「イラク現代アートの先駆者たち」2008年2月9日（京都、思文閣会館）



左：
アラブ文化の
調べ（広島）

右：服を選ぶ
（パレスチナ刺繍
の体験）



中東カフェ参加者についての分析

1. 文化面や生活実態への知識欲が圧倒的に大きい
2. 文化と政治が不可分であるとの認識が定着している
3. 地方と東京での参加者の関心の違い。情報量の多い東京に比べて地方では特に文化面、生活慣習などに対する関心が強い
4. 宗教に関する関心の全般的な低さ
5. 中東での経験が中東に関する幅広い知識に繋がっているわけではない
6. ジャーナリストの間で、報道姿勢のあり方を巡り、しばしばギャップが見られる
7. 女性の参加率が高い
8. 日本の果たす役割に対する関心の高さ

参加者の反応から見える問題：NGO、メディア、実務界と研究者の齟齬、交流の不在

1. 研究者と政府間関係の連携の不在
2. 実務界、メディアに対する研究情報提供の不備、研究者の実務界、メディアへの関心の低さ
3. 実務界による地域研究に対する軽視
4. 実務界と研究者間の中東地域に対する関与方針の違い

中東現地社会で開催するワークショップ、シンポジウムの有効性

- ◎ **Future of Iraq: Social, Economic and Political Issues in Question** January 16-17, 2010, Crowne Plaza Hotel, Beirut, Lebanon
- ◎ **Borders and Coexistence in the Globalised World**, January 8, 2011, Crowne Plaza Hotel, Beirut

レバノンのみならず周辺地域の知識人、研究者が参加しやすい：日本に招聘するより現地アカデミズムの刺激になる

左：Future of Iraq

右：Borders and Coexistence


Japan Center for Middle Eastern Studies (JCMES), Beirut
 "Conflict, Collapsed State, and Social Movements in the Contemporary", Grants-in-Aid for Scientific Research, Japan Society for the Promotion of Science
 "Seeking for New Notion of Area and Coexistence: Bridging Middle East and Asia", Needs-based Programme for Area Studies, sponsored by Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology-Japan (coordinators of both: Keiko SAKAI)



January 10 – 17, 2010
Crowne Plaza Hotel
Hamra, Beirut

International Workshop

Future of Iraq: Social, Economic and Political Issues in Question

Workshop Programme

Day 1: January 16 (Saturday)

- 9:45 Opening Remarks (Prof. Keiko Sakai)
- Morning Session (10:00 – 12:30)
- Displacement and Dispersal - Iraq's Refugees, Part I: Dynamics of displacement - displacement processes in Iraq**
- Philip Marfleet, "Understanding Iraqi Displacement I," *University of East London*
- Nazir Sultanzadeh, "Dynamics of Displacement," *Political Analysis*
- Ekras Ghazal, "Displacement in Baghdad," *International Medical Corps*
- Fayza Mawardi, "Iraqi Refugees: the Challenges Ahead," *NGO Coordination Committee for Iraq (NCCI)*
- Intisar al-Fattouh, "IDPs in Iraq," *Tokyo University of Foreign Studies*
- Afternoon Session 1 (13:30 – 15:30)
- Displacement and Dispersal - Iraq's Refugees, Part II: Refugee Communities**
- Genevieve Chastellier, "Understanding Iraqi Displacement 2," *Institut Français du Proche-Orient*
- Kamel Dorra, "Iraqis in Syria," *Institut Français du Proche-Orient*
- Dilem Dorra, "Iraqis in Turkey," *Beirut University, Lebanon*
- Sara Sakki, "Iraqis in Egypt," *American University in Cairo*
- Afternoon Session 2 (16:20 – 18:40)
- Nationalism and Ethnic/Communal Identities in Contemporary Iraqi Politics: Cases of the Kurds and the Kurds**
- Dou Yansen, "Islamism or Nationalism? Struggle for New Iraqi State building," *Kyoto University*
- Akiho Yoshikawa, "The Position of the Kurds: Shaky Federal System in the New Iraq," *JMEE Center/JEEF*
- Fahd A. Jabir, "Rise and Decline of Identity Politics in Iraq, 2003-2009," *Iraq Institute for Strategic Studies*

Day 2: January 17 (Sunday)

- Morning Session (10:00 – 12:30)
- Contemporary issues of Oil and Economy in Iraq**
- Fahd al-Kharaya, "Optimistic Iraq Oil Production Rates 2010 – 2020," *Independent Consultant based in Amman*
- Walid Khaddaf, *Writer on Energy Affairs*
- Ahmed Iraqi, "The Fiscal Response Governing Iraq's Upstream Petroleum Development," *Independent Scholar*
- Ali K. Muzir, "Oil & Issues in Iraq," *Independent Scholar*
- Kamil Makh, "Imperialism, Fragmentation and Iraq Economic Policymaking," *Transnational Institute, Amsterdam*
- Afternoon Session 1 (14:00 – 15:30)
- Ethnicities in Iraq: Present Facts and Future Trends**
- Shimara al-Ahli, *Beirut al-Wilaya, Baghdad*
- Amal Shalash, *Royal al-Bidwa, Baghdad*
- Kassim Hanna, *Beirut al-Wilaya, Baghdad*
- Afternoon Session 2 (15:30 – 19:00)
- Iraqi Self-Concept in History & Culture**
- Hala Fattah, "Things I Learned about the Royalist Elite in Iraq by Conducting an Oral History Project," *Independent Scholar*
- Rashad Sakir, "Iraqi Art after 2003," *International Network of Contemporary Iraqi Artists (INCA)*
- Fatma Al-Joussifi, "Factors that Paved the Way for the Occupation of Iraq and Their Effects on Iraqi Society After 2003," *Independent Iraqi Sociologist*
- Mervous Fattouhi, *Documentary Film: "Open Streets IRAQ," Iraqi Film Director*
- Closing Remarks (19:20 – 19:30)

For details, visit our website at <http://www.jcmes.jp/summa/summa/>
 Contact Information: workshop@jcmes.jp


Saturday, January 8, 2011
Crowne Plaza Hotel, Hamra, Beirut



Bridging the Middle East and East Asia: Borders and Coexistence in the Globalised World

Chair
Prof. Keiko Sakai
 Tokyo University of Foreign Studies, Tokyo, Japan

13:30 – 13:40 Opening remarks Prof. Keiko Sakai

13:40 – 14:20 Keynote speech
 Prof. Tsugitaka Sato | Waseda University, Tokyo, Japan
Reflections on the 'Area' in Islamic Area Studies

14:20 – 14:50 Prof. Yukiko Miyagi | Durham University, Durham, UK
Japan's Middle East Security Policy

14:50 – 15:20 Discussion

15:20 – 15:50 Coffee Break

15:50 – 16:20 Prof. Massoud Daher | Lebanese University, Beirut, Lebanon
The Lebanese crisis and its Middle East dimensions

16:20 – 16:50 Prof. Maher Charif | Institut Français du Proche-Orient, Damascus, Syria
Palestine in the Midst of the Partition Plan of the Arab East

16:50 – 17:20 Prof. Taro Tsukimura | Doshisha University, Kyoto, Japan
De-Balkanization in the Balkans: Returning from a Region to Borderlands

17:20 – 17:50 Discussion

17:50 – 18:00 Break

18:00 – 18:30 General Discussion

18:30 – 18:40 Concluding remarks Prof. Hidemitsu Kuroki | JCMES/ Tokyo University of Foreign Studies

19:00 – 21:00 Reception Party

This workshop is supported by Japan Center for Middle Eastern Studies (JCMES), Beirut.
 "Searching for the New Notion of Area and Coexistence: Bridging the Middle East and Asia", Needs-based Programme for Area Studies, sponsored by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology-Japan (both coordinated by: Keiko SAKAI)

日本の中東研究と米国の中東研究の比較

→ワークショップ：**The State of Middle East Studies in the American Academy**

(2011年2月12-13日、東京外国語大学)

- 米国の中東地域研究の問題点：9-11以降、ディシプリン型地域研究が軽視され実務直結型情報専門家の登用が主流になっている
- 政策策定に関与するシンクタンク研究者と大学研究者との乖離の大きさ
→日本も共有する問題
- 中東研究が地域研究として学問水準を高められるかの課題：中東研究がどのような研究方法論を提示可能か

まとめ

- ◎ 「カフェ」方式の社会発信方法の有効性：
教育機関、市民向けの開催の継続
- ◎ 生身の生活、文化を知るための場の拡充：
音楽、演劇の発信力を活用
→研究者の限界・芸能業界、映像業界などの
関与が不可欠か
- ◎ 地域研究概念の学術的精緻化と特に中東地
域に対する国際発信の必要性